

27.6.17 高鍋

「水質は改善傾向」 民間団体 河川など調査

河川など身近な水環境の実態を把握しようと、高鍋町の

高鍋自然愛好会（坂田佐一郎会長、20人）など4団体は町



試薬などを用いて採取したサンプルの水質を調べる参加者

内16カ所で水質調査をこのほど行った。

調査は今年で14年目。全国水環境マップ実行委員会（東京都）が統一した手法で行い、マップを作成する調査の一環。昨年は全国で約5千人が5544地点で実施した。

国交省や水辺の環境をとりもどす会、小丸川漁協から25人が参加。小丸川や城堀、高鍋湿原、宮田川などから気温や水温などを記録しながらサンプルの水を採取した。

この後、高鍋湿原に持ち寄って、専用の試薬でCOD（化学的酸素要求量）や硝酸、アンモニアなどの濃度を

測定した。

坂田会長(73)は「昨年と比べても極端に変わった部分はなく、改善傾向にある。特に高鍋湿原にある四つの池については、注意して見守っていきたい」と話している。